

福祉教育への挑戦(1)

高等専修学校の授業風景から

高井裕二

高等専修学校で「福祉」を教える

みなさんは「高等専修学校」をご存じでしょうか。こう尋ねると「高等専門学校」と勘違いされる方も多いため、連載を通じて高等専修学校の性質についても随時紹介しながら話を進めていきます。学校教育法上、高等専門学校は小学校、中学校や高等学校と同様に、いわゆる「1条校」に属しています。

今回のテーマである高等専修学校は学校教育法では124条に規定され、中学校卒業者を対象とした「専修学校」に位置づけられ、全国に約400校、約34,000人の生徒が学んでいます。就業年限が3年以上で、授業時数や履修科目等の要件を満たし、文部科学省が指定する課程を修了した場合は、高等学校卒業者と同様に大学入学資格が与えられます。

また、小学校、中学校時に不登校を経験した生徒のセーフティネットとしての機能や発達障害のある生徒を積極的に受け入れる学校も多く、中学校卒業後の多様な選択肢の一つとして注目されています。主な分野は以下の通りです(表1)。私は現在、福祉系大学で助教として勤務をしながら、福祉コースを設置している高等専修学校で非常勤講師として勤務しています。

この専門分野の授業は実務経験のある専門家が担当しており、生徒たちは早期に専門教育を受けることができます。私は長年、地域包括支援センターの社会福祉士・管理者として経験した相談事例などを授業に盛り込みながら、高齢者やその家族の困り事を具体的にイメージしてもらえそうな授業ができるように努めています。第1回目は高等専修学校での生徒との関わりについて言葉にしていきます。

表1 専修学校の8分野

分野	主な設置学科
1. 工業	情報処理、コンピュータグラフィックス、自動車整備、土木・建築 電気・電子、放送技術、無線・通信 など
2. 農業	農業、園芸、畜産、造園、バイオテクノロジー、動物管理 など
3. 医療	看護、歯科衛生、歯科技工、臨床検査、診療放射線、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、はり・きゅう・あんまマッサージ指圧、柔道整復 など
4. 衛生	栄養、調理師、製菓、製パン、理容、美容、エステ など
5. 教育・ 社会福祉	保育、幼児教育、社会福祉、医療福祉、介護福祉、老人福祉、精神保健福祉 など
6. 商業 実務	経理・簿記、旅行・観光・ホテル、会計、経営、医療秘書、流通ビジネス OA、ビジネス、福祉ビジネス など
7. 服飾・ 家政	ファッションデザイン、ファッションビジネス、アパレルマーチャンダイジング、和洋裁、編物・手芸、スタイリスト など
8. 文化・ 教養	デザイン、インテリアデザイン、音楽、外国語、演劇・映画、写真、通訳・ガイド、公務員、社会体育 など

「わからない」に向き合って

過度に一般化することはできませんが、高等専門学校に進学する生徒は多様な背景を持っています。例えば、親が福祉の仕事をしていて幼い頃から福祉に興味を持って入学した生徒、不登校やいじめ経験によって生徒間の距離感が掴めず苦勞している生徒、基礎学力が定着していない生徒、発達障害のある生徒、特別な支援を必要とする生徒、中学校の進路指導時に「ここしか行くことができない」と言われて不本意入学して心に傷を抱えている生徒など、枚挙にいとまがありません。

教師(大人)に対して不信感を抱く生徒に対しては、話を丁寧に受容して信頼関係を築いていくことが求められ、これまでの相談業務経験を活かすことができます。「人間関係や集団で傷ついた人たちを人間関係や集団活動を通して癒していく」ことは、高等専修学校の魅力の一つだと思います。しかし、非常勤講師の業務はあくまで授業がメインであり、一対一の個別支援をしに学校に来ているわけではありませんので、教師としての難しさを痛感しています。

代表的なものが授業中に寄せられる3つの「わからない」です。1つ目は、授業で話している内容が分からないというものです。「QOLとは何を指すのか、具体的にどういうことか」のように、授業で話している内容そのものの理解がしばらく時に発せられるもので、私自身の若年層に届く表現力に欠けているところが大きいです。2つ目は、今何の話をしているのかわからないというものです。授業中に取り残してしまうとも言えます。感染症対策のために窓を開けていると色んな音が聞こえてきますので、聴覚過敏な生徒にとっては注意力を維持するのが大変なようです。それ以外にも友達同士の私語によって集中力を欠き、授業ごとに教科書のページ数を板書していても、「今、どこの話をしているの?」と何度も尋ねられます。集中できる環境や伝え方の工夫をこれからも重ねていきたいと思います。そして3つ目は、「ただただ教師と話がしたい」ために発せられるものです。「わからない」と言われて生徒に近づいていくと、凄くうれしそうに他愛のない話を聞かせてくれます。「授業のどこがわからなかったの?」と尋ねると「わからない」と笑顔で答えてくれます。

この3つの「わからない」が授業の中で何度も寄せられると、今の私の力では十分に応えることができていないと感じています。授業が最優先ですから授業内容に関する質問に「答え」ますが、3つ目の話がしたいという声に「応え」なければ「無視された」との発話も出て、クラスの雰囲気にも影響が出ます。今は授業の説明の中に生徒との会話を織り交ぜたり、授業後にフォローしたりして生徒との関係づくりに向き合っています。

これからも時に社会福祉士としての自分も含ませながら、生徒たちの福祉教育に向き合っていきます。